

朝河貫一コレクション～没後 70 年に寄せて～



当館所蔵『朝河貫一資料』より

当館の特殊コレクションの一つに「朝河貫一資料」があります。1984(昭和 59)年に朝河貫一の親族より寄贈され、当館が福島市森合の地に移転したオープン時の特別企画展として紹介したコレクションです。

朝河貫一は、1873(明治 6)年二本松市に生まれました。旧制安積中学校を卒業、東京専門学校(現在の早稲田大学)に進み、1895(明治 28)年に渡米、歴史学を研究した国際的な学者です。ダートマス大学を経てイエール大学に学び、両大学で 40 年近くにわたり教鞭をとりました。私生活では 1905(明治 38)年アメリカ人ミリアムと結婚(1913 年死去)。その後、教授に昇進し 1942(昭和 17)年に名誉教授となりました。

主な著作として『日本の禍機』『大化改新の研究』『入来文書』などがあり、日欧両史や比較法制史の研究等、実証的法制史家として世界的に高い評価を得ました。1948(昭和 23)年夏、米国の静養先で 74 歳の生涯を終え、本年度で没後 70 年になります。

コレクションは約 2800 点あり、そのうち書簡が 2551 点と最も多く、写真など約 260 点を所蔵しています。朝河が書簡をしたためる場合、先ず草案を手書きかタイプ印書により作成し、推敲の上、手書きかタイプで浄書し発信することが多く、毎日曜日を長文の書簡執筆に宛てるなど受信書簡を丹念に保存していたようです。その生涯を終えるまで、これらの発信書簡案文と受信書簡原本は大切に保存されていました。野口英世が 1921(大正 10)年 9 月に朝河に送った英文の書簡や、徳富蘇峰・大隈重信・坪内逍遙ら多くの著名人との交流が伺える書簡も残っています。

なかでも有名なのは、「**大統領親書草案**」です。朝河は日米関係の悪化を憂い、ルーズベルト米大統領から日本の昭和天皇へ直接「戦争回避」を呼びかける親書を送るよう友人である美術史家 ラングドン・ウォーナーとともに動きました。開戦の直前 1941(昭和 16)年 11 月 23 日に書き上げた趣意書 3 枚 本文 7 枚のタイプで打たれた草案です。

このコレクションは、朝河の公私にわたる交流がうかがえる資料として現在も多くの研究者に活用されています。1996(平成 8)年に書簡のみをデジタル化して原資料を保存、デジタル版を公開しています。また、著作やイエール大学図書館に保管されている英文の日記や書簡・ノート類がまとめられた『Kanichi Asakawa Papers』(マイクロ版)等も収集し、関連する資料の充実に努めています。このたび没後 70 年に併せ、当館 HP にてコレクション目録を公開、6 月-8 月に「海を渡ったサムライ-朝河貫一没後 70 年記念展-(仮)」を開催する予定です。主だった書簡を展示し、記録映像等の上映や職員によるギャラリートークを計画しています。この機会に朝河博士からのメッセージを受け取ってみませんか？

福島県立図書館所蔵 朝河貫一関連資料一覧

◆著作◆

書誌事項	請求記号
『Kan'ichi Asakawa Papers[マイクロフィルム版]』Yale University Library Yale University 米国 1986 35mm 全10リール	MF289/A1/2-
『THE EARLY INSTITUTIONAL LIFE OF JAPAN』朝河貫一/著 早稲田大学出版部 東京 1904 23cm 6,355p	LA210.3/A1/1
『安積中學英語教師ハリファックス留任嘆願書 新訂版』武田徹/[編] 朝河貫一博士顕彰協会 [福島] 2006.7 21cm 52p	L376.4/A11/9-2
『ポーツマスから消された男 朝河貫一の日露戦争論(横浜市立大学叢書4)』矢吹晋/著・編 訳 東信堂 東京 2002.2 19cm 174p p9-53「ポーツマス日露講和交渉と朝河貫一」矢吹晋/著, p54-101「日露衝突序説」, p102-142「東洋の戦争を導いたいくつかの事件」, p143-164「ポーツマス条約論」朝河貫一/著 矢吹晋/訳	L289/A7/34
『安積中學英語教師ハリファックス留任嘆願書』武田徹/[編] 朝河貫一博士顕彰協会 [福島] 2006.5 21cm 52p	L376.4/A11/9-1
『横浜市立大学論叢 社会科学系列 第53巻第2・3合併号, 第54巻第1号』横浜市立大学 2002-2003 「満州における日本1-2」朝河貫一/著	LA319.1/A1/4
『横浜市立大学論叢 社会科学系列 第55巻第2号』横浜市立大学 2004.3 p97-146「中世日本の寺院領の生活」朝河貫一/著	LA210.4/A1/1
『横浜市立大学論叢 社会科学系列 第55巻第3号』横浜市立大学 2004.3 p99-132「初期の荘と初期のマナー:比較研究」朝河貫一/著	LA210.4/A1/3
『横浜市立大学論叢 人文科学系列 第54巻第1・2・3合併号』横浜市立大学 2003 p459-496「武士道とはなにか 近代日本が封建日本に負うもの1912年」朝河貫一/著	LA156/A1/1
『横浜市立大学論叢 人文科学系列 第55巻第1号』横浜市立大学 2004.3 p267-306「源頼朝による幕府の樹立」朝河貫一/著	LA210.4/A1/2
『大化改新』朝河貫一/著 柏書房 東京 2006.7 22cm 334,310,3p	LA210.3/A1/2
『中央学院大学社会システム研究所紀要 第6巻第2号,第7巻第1-2号,第8巻第2号,第9巻第1-2号,第10巻第1号』中央学院大学社会システム研究所 2006-2009「翻訳:『露日紛争』(連載1-7)」米田富太郎/訳 佐藤寛/訳	LA210.67/A1/2-
『中世日本の土地と社会』朝河貫一/著 柏書房 東京 2015.3 22cm 6,255,133p	LA210.4/A1/4
『朝河貫一書簡資料集[マイクロフィルム版]』福島県立図書館/[編] 福島県立図書館 福島 1997.3 35mm	MF289/A/1-
『朝河貫一書簡資料集[PDF版]』福島県立図書館/[編] 福島県立図書館 福島 2012.6 12cm 1枚	CS289/A1/3
『朝河貫一比較封建制論集』朝河貫一/著 柏書房 東京 2007.2 22cm 527,226,1p	LA210.4/A1/5
『島津忠久の生ひ立ち 低等批評の一例』朝河貫一/著 慧文社 東京 2007.6 22cm 127p	LA289.1/A2/1
『日本の禍機』朝河貫一/著 講談社 東京 1987.4 15cm 254p	LA319.1/A1/2
『日本の禍機』朝河貫一/著 実業之日本社 東京 1909 22cm 258p	LA319.1/A1/3
『日本の禍機』朝河貫一/著 宗高書房 東京 1985.11 22cm 272p『日本の禍機』(実業之日本社 明治42年刊)の複製 由良君美/解題	LA319.1/A1/1
『現代文で読む「日本の禍機」 世界的歴史学者朝河貫一の警告』朝河貫一/著 朝河貫一博士顕彰協会事務局 福島 2017.6 21cm 333p	LA319.1/A1/5
『入来院書 入来院家文書』朝河貫一/著 紀伊国屋書店 東京 2000.2 27cm 323,22,421,16p	LA219.7/A1/2-1
『入来院家文書 [CD-ROM版]』東京大学史料編纂所/編 紀伊国屋書店 2000.2 12cm 1枚	LA219.7/A1/2-2

『入来院家文書 CD-ROM版解説書』東京大学史料編纂所/編 紀伊国屋書店 東京 2000.2 26cm 21p	LA219.7/A1/2-3
『入来文書』朝河貫一/著 日本学術振興会 東京 1955.12 26cm 16,323,16,442,22p 図版	LA219.7/A1/1
『入来文書』朝河貫一/著 柏書房 東京 2005.8 22cm 720p	LA219.7/A1/3

◆目録◆

『Treasures from Japan in The Yale University Library イェール大学図書館所蔵日本関係資料』Edited by Daniel V.Botsman Beinecke Rare Book & Manuscript Library New Haven c2015 16×23cm 75p	LA302.1/Y1/1
『イェール大学所蔵日本関連資料研究と目録』東京大学史料編纂所/編 勉誠出版 東京 2016.3 22cm 5,631,10p	LA029.7/A1/1
『朝河貫一関係文献目録 1997年5月末現在』朝河貫一書簡編集委員会/原編 朝河貫一研究会 東京 1998.1 21cm p241-270	L289/A7/27
『朝河貫一資料 早稲田大学・福島県立図書館・イェール大学他所蔵(研究資料シリーズ No.5)』山岡道男/著 早稲田大学アジア太平洋研究センター 東京 2015.2 26cm 394p	L289/A7/92
『朝河貫一資料目録』福島県立図書館/編 福島県立図書館〔福島〕 1991 38cm 1冊	L289/A7/12
『朝河貫一著作・関係文献目録(稿) 早稲田大学. 社会科学研究所』朝河貫一書簡編集委員会/編 早稲田大学社会科学研究所朝河貫一書簡編集委員会 東京 1988 26cm 36枚	L289/A7/8
『朝河貫一博士展』福島県立図書館/編〔福島県立図書館〕〔福島〕〔1984〕 19×60cm 1枚	L289/A7/48
『朝河博士顕彰遺品展の栞』福島県立図書館/編〔福島県立図書館〕〔福島〕〔1953〕 19×97cm 1枚	L289/A7/14
『調査研究報告 第11号』国文学研究資料館文献資料部 1990.3 p35-40「イェール大学図書館と朝河貫一」金子英生/著	L289/A7/50
『福島県立図書館所蔵 朝河貫一資料目録』福島県立図書館〔福島〕 1992 26cm 57p	L289/A7/13

◆研究資料◆

『朝河貫一研究会ニュース No. 1-No. 90』朝河貫一研究会/[編] 朝河貫一研究会 東京 1991.6-2017.4	L289/A7/30
『朝河貫一博士顕彰協会会報 第4号-第36号[欠号有]』朝河貫一博士顕彰協会	L289/A7/39
『「驕る日本」と闘った男 日露講和条約の舞台裏と朝河貫一』清水美和/著 講談社 東京 2005.9 20cm 270p	L289/A7/57
『100年前からの警告 福島原発事故と朝河貫一』武田徹/著 花伝社〔東京〕 2014.5 20cm 184p	L289/A7/90
『K. Asakawa's pocket dictionary』朝河貫一博士顕彰協会事務局/編 朝河貫一博士顕彰協会 郡山 2007.9 19cm 1冊	L376.4/A11/10
『Kan'ichi Asakawa A Historian Who Worked For World Peace』武田徹/著 太陽出版 東京 2007.6 21cm 127p	L289/A7/69
『Kan'ichi ASAKAWA Immortal Historian』武田徹/著 朝河貫一博士顕彰協会 〔福島〕 2006.6 21cm 31p	L289/A7/64
『T. E. ハリファックス 英語を通して世界へ雄飛させた(「ふくしま」が育んだ朝河貫一シリーズ1)』武田徹/責任編集 朝河貫一博士顕彰協会〔福島〕 2009.6 19cm 201p	L289/A7/80
『アメリカが見つかりましたか 戦前篇』阿川尚之/著 都市出版 東京 1998.11 20cm 253 p160-196「朝河貫一 快活自在にして誰の前なりとも臆することなどなく」	L289/A7/35
『ふくしまの素顔 遙かなる光芒 朝河貫一』福島中央テレビ/編〔福島中央テレビ〕〔郡山〕 〔1985〕 26cm 126p	L289/A7/6

『ふくしまの素顔 遙かなる光芒朝河貫一 福島中央テレビ開局15周年記念特別番組』[福島中央テレビ/制作] [福島中央テレビ] [福島] [1985] 25cm 124p	L289/A7/100
『ほくと日本の人びと NETT臨時増刊号』窪田弘/[著] 北海道東北地域経済総合研究所 東京 2013.7 21cm 186p 「第十五話 朝河貫一」	L281.04/K3/1
『偉大な朝河貫一博士 日本をアメリカを世界を考える』森芳久/著 森芳久 福島市 26cm 138p	L289/A7/44
『角田柳作とドナルド・キーン 群馬から世界へ』群馬県立土屋文明記念文学館/編 群馬県立土屋文明記念文学館 高崎 2016.10 30cm 58p	L289/T56/4
『幻の米国大統領親書 歴史家朝河貫一の人物と思想』朝河貫一書簡編集委員会/編 北樹出版 東京 1989.6 19cm 135p	L289/A7/9
『今に生きる朝河貫一 その生涯と業績』朝河貫一博士顕彰協会事務局/[編] 朝河貫一博士顕彰協会事務局 郡山 2004.5 21cm 83p	L289/A7/54
『最後の「日本人」朝河貫一の生涯(岩波現代文庫 社会94)』阿部善雄/著 岩波書店 東京 2004.7 15cm 319p	L289/A7/55
『最後の「日本人」朝河貫一の生涯(同時代ライブラリー)』阿部善雄/著 岩波書店 東京 1994.8 16cm 305p	L289/A7/18
『最後の「日本人」朝河貫一の生涯』阿部善雄/著 岩波書店 東京 1983.9 20cm 344p	L289/A7/4
『世界の朝河貫一博士を語る』阿部善雄/[著] [出版者・出版地・出版年不明] 21cm 18p	L289/A7/7
『太平洋戦争敗北の責任(別冊歴史読本)』新人物往来社 東京 1997.5 26cm 225p 「天皇宛ルーズベルト大統領親書の舞台裏」糠澤修一/著	L289/A7/24
『太平洋問題調査会(IPR)とその群像(WIAPSRサーチ・シリーズ No.6)』早稲田大学アジア太平洋研究センター太平洋問題調査会(IPR)研究部会/著 早稲田大学アジア太平洋研究センター 東京 2016.2 26cm 203p 「朝河貫一と高木八尺」山内晴子/著	L289/A7/94
『太平洋問題調査会<1925~1961>とその時代』山岡道男/編著 春風社 横浜 2010.3 21cm 6,306p	L289/A7/81
『朝河の道 家族で訪ねるプロムナード』朝河貫一博士顕彰協会 福島 2008 21×59cm 1枚	L289/A7/75
『朝河の道』朝河貫一博士顕彰協会 [福島] 2016.5 30×96cm 1枚	L289/A7/75-2
『朝河貫一 ある史学者の略伝』桑原善作/稿 [桑原善作] [東京] 1968.12 21cm 15p	L289/A7/3
『朝河貫一 その生涯と功績』渡邊剛/著 渡邊剛 [出版地・出版年不明] 26×37cm 10枚	L289/A7/42
『朝河貫一人・学問・思想 朝河貫一博士生誕120周年記念シンポジウム』井出孫六/[ほか]著 北樹出版 東京 1995.6 19cm 152p	L289/A7/19
『朝河貫一とその時代 Historian Curator and Peace Advocate』矢吹晋/著 花伝社 [東京] 2007.12 20cm 295p	L289/A7/71
『朝河貫一とマルク・ブロックの往復書簡 戦間期における二人の比較史家』向井伸哉/著 立教大学史学会 [東京] 2016.4 21cm 225p	L289/A7/95
『朝河貫一と四人の恩師(「ふくしま」が育んだ朝河貫一シリーズ 2)』武田徹/編著責任 朝河貫一博士顕彰協会 福島 2010.11 19cm 254p	L289/A7/80-2
『朝河貫一と日欧中世史研究』海老澤衷/編 吉川弘文館 東京 2017.3 22cm 6,264,39p	L289/A7/98
『朝河貫一の世界 不滅の歴史家偉大なるパイオニア』朝河貫一研究会/編 早稲田大学出版部 東京 1993.9 21cm 292,36p	L289/A7/17
『朝河貫一書簡集』朝河貫一書簡編集委員会/編 朝河貫一書簡集刊行会 [東京] 1991.2 22cm 866,224,18p	L289/A7/11
『朝河貫一博士の顕彰に関するレポート 没後50周年記念』朝河貫一研究会/編 朝河貫一博士顕彰協議会 [東京] 1998.8 26cm 36p	L289/A7/31
『朝河貫一博士顕彰協議会 朝河貫一記念財団設立へ』福島テレビ/[編] [福島テレビ] [福島] [2003] 30cm 7p	L289/A7/49

『朝河貫一論 その学問形成と実践(早稲田大学モノグラフ2)』山内晴子/著 早稲田大学出版部 東京 2009.1 30cm 538,3p	L289/A7/78
『朝河貫一論 その学問形成と実践(早稲田大学学術叢書7)』山内晴子/著 早稲田大学出版部 東京 2010.3 22cm 7,640p	L289/A7/82
『朝河正澄 戊辰戦争、立子山、そして貫一へ』武田徹/編 朝河貫一博士顕彰協会 [福島] 2006.8 21cm 110p	L289/A43/1
『貞子の語る入来文書』入来院貞子/著 高城書房 鹿児島 2012.5 20cm 291p	LA219.7/11/1
『日本の発見 朝河貫一と歴史学』矢吹晋/著 花伝社 [東京] 2008.12 20cm 265p	L289/A7/76
『日露戦争もう一つの戦い アメリカ世論を動かした五人の英語名人(祥伝社新書041)』塩崎智/[著] 祥伝社 東京 2006.7 18cm 211p	L289/A7/65
『秘蔵写真日露戦争 写真構成(別冊歴史読本永久保存版 第09号)』新人物往来社/編 新人物往来社 東京 1999.3 26cm 195p p178-187「朝河貫一」糠澤修一/著	L289/A7/43
『評釈 朝河貫一・珠玉のことば』朝河貫一研究会/編 二本松市教育委員会 二本松 2000.6 21cm 72p	L289/A7/38
『副読本 朝河貫一 一を以て之を貫く』二本松市教育委員会 二本松 1993 26cm 24p	L289/A7/15
『福島の人物ものがたり』同編集委員会/編 日本標準 東京 1990 21cm 175p 朝河貫一の記述あり	L281.04/F3/1
『福島県が生んだ平和と人権の先駆者たち(福島県九条の会ブックレット1)』吉原泰助/著 福島県九条の会 福島 [2009] 30cm 12p p5-7「祖国の覇権主義・国家主義を憂えた歴史学者＝朝河貫一(中通り)」	L281.04/Y4/1
『福島県文学全集 第2巻第Ⅱ期随筆・紀行・詩編 昭和編Ⅰ』澤正宏/編 郷土出版社 長岡 2002.7 20cm 551p p262-267「朝河貫一と私-木村毅君に答える-」會津八一/著	L918.6/F4/2-2
『福島県文学全集 第5巻第Ⅱ期随筆・紀行・詩編 現代編Ⅱ』澤正宏/編 郷土出版社 長岡 2002.11 20cm 355p p166-175「朝河桜」井出孫六/著	L918.6/F4/2-5
『明治を支えた「賊軍」の男たち(講談社+α新書464-2C)』星亮一/[著] 講談社 東京 2010.12 18cm 186p p168-181「第10章 朝河貫一 無謀な侵略戦争に反対し全米で尊敬を受けた学究」	LA281.04/H2/1
『歴史浪漫 ふるさとの人物史』二本松市/[編] 二本松市 二本松 1999.9 21cm 50p p1-2「朝河貫一」	L281.2/N2/1
『甦る朝河貫一 不滅の歴史家 偉大なるパイオニア』朝河貫一研究会 東京 1998.1 21cm vi,354,9p 図版	L289/A7/26

◆論文など◆

『アジア太平洋研究科論集 11号』早稲田大学アジア太平洋研究センター・大学院アジア太平洋研究科出版・編集委員会 東京 2006.6 26cm 317p p145-170「朝河貫一 幼少年期の知的精神的成長」山内晴子/著	L289/A7/70
『アジア太平洋討究 第19号』早稲田大学アジア太平洋研究センター出版・編集委員会 2013 p103-127「朝河貫一と埴原正直 日米関係における外交提言」山内晴子/[著]	L289/A7/89
『キリスト教史学 第58集』キリスト教史学会 2004.7 p92-113「キリスト教の寛容 朝河貫一の日本外交の理念の場合」山内晴子/著	L289/A7/60
『すぎのめ 第3号』福島市杉妻地区史跡保存会 1980 p40-42「朝河博士を敬慕して」高橋利夫/著	L211/F8/1-3
『せたかい通信 平成17年4月1日号』世田谷区誌研究会 2005.4 p2-3「日本近現代史の陰忘れられた人達(1) 歴史研究家 朝河貫一」瀬村進/著	L289/A7/59
『ラジオ深夜便 通巻137号』NHKサービスセンター 2011.12 p41-55「明日へのことば 歴史学者・朝河貫一に教えられたこと」山内晴子/著	L289/A7/85
『亜細亜大学教養部紀要 第59号』亜細亜大学教養学部 1999 「朝河貫一の日本留学時代-英文日記抄録(その1)」杉淵忠基/著	L289/A7/40

『稲門英語会だより 第19号』稲門英語会2011.11 p1-2「歴史学者 朝河貫一からのメッセージ」山内晴子/著	L289/A7/84
『会津会々報 第109号』会津会 2003.6 p142-145「郭公抄 会津関係の本の紹介 日本の禍機 朝河貫一著〔、他〕	L051/A2/1-
『敬愛大学国際研究 第19号』敬愛大学 2007.7 p87-117「朝河貫一の関西調査旅行 1918年7月-1919年1月」増井由紀美/[著]	L289/A7/91
『国際人流 あなたと外国人を結ぶ情報誌 第26巻第7号通巻314号』入管協会 2013.7 p43-47「じんりゅう時評 朝河貫一に学ぶ歴史認識と国民的反省力の養成」佐伯浩明/著	L289/A7/87
『渋沢研究 第21号』渋沢史料館 2009.1 p105-111「書評 矢吹晋著『朝河貫一とその時代』(花伝社、2007年12月発行)」山内晴子/著	L289/A7/79
『早稲田ウィークリー 第1377号』早稲田大学学生部 2015.10 [p4-5]「米国名門大学の教壇に立った二人の日本人学者」	L289/A7/93
『中央学院大学教養論叢 第6巻第2号』中央学院大学 1986「朝河貫一の後年を彩った女性 その哀切なる愛と傷心の軌跡」石川衛三/著	L289/A7/22
『中央学院大学人間・自然論叢 第1号』中央学院大学 1994 p3-37「評伝ベラ・アルウィン」石川衛三/著 p165-256p「朝河貫一とIALA」石川衛三/著	L289/A7/20
『東京国際大学論叢 第5号通巻第56号』東京国際大学 1999.9 p25-41「朝河貫一伝への試み」井出孫六/著	L289/A7/41
『東京新聞 1998年12月13日』東京新聞 1998.12 「100億人の200世紀44「ポーツマス」から消された男」	L289/A7/36
『東京大学日本史学研究室紀要 第16号』東京大学大学院人文社会系研究科・文学部日本史学研究室 2012.3「朝河貫一とアンドレ・ゴンティエ: 福島県立図書館所蔵往復書簡の紹介」新田一郎[ほか]/編	L289/A7/86
『東京大学日本史学研究室紀要 第13号』東京大学大学院人文社会系研究科東・文学部日本史学研究室 2009.3「イェール大学図書館所蔵朝河貫一文書(朝河ペーパーズ)の基礎的研究」佐藤雄基/著	L289/A7/83
『東洋英和女学院大学現代史研究所紀要「現代史研究」第10号』東洋英和女学院大学 2014.3 p127-185「朝河貫一の理想主義と現実主義 天皇制民主主義の学問的起源」山内晴子/[著]	L289/A7/88
『二本松歴史研究会資料 第105号』二本松歴史研究会 2001.2p1-6「郷土の生んだ世界的歴史学者朝河貫一」渡邊剛/述	L210.05/N1/1-105
『年報 近代日本研究 18』近代日本研究会 1996.11 p197-224「朝河貫一における「世界史」の視点(特集 比較の中の近代日本思想)」梶田明弘/著	L289/A7/29
『比較日本文化学研究 創刊号』広島大学大学院文学研究科総合人間学講座 2008.3 p53-127「戦前日本史学の国際環境-朝河貫一宛書簡の紹介を中心に-」河西英通/著	L289/A7/73
『文藝春秋 第81巻第6号』文藝春秋 2003.5 p80-81「朝河先生の宿題」加藤良三/著	L289/A7/53
『立教大学日本学研究所年報 第16号』立教大学日本学研究所 2017.7 p71-82「朝河貫一とジョン・ケアリー・ホールの往復書簡の紹介-1910年代英語圏における日本史研究と日本アジア協会の歴史家たち-」佐藤雄基/[著]	L289/A7/58

(地域資料チーム 原 馨)